

大学生の有する知識・情報の源と獲得時期について

—「どんぐり」からの連想データを基にして—

森 良子*・井上 雅夫*

(1991年12月7日受理)

Yoshiko MORI and Masao INOUE

An Examination of Provenance and Time of Acquisition of Knowledge
through Association of Ideas
—College Students and an Acorn—

われわれが有する知識・情報の源はさまざまである。またこれまでの生涯における情報獲得の時期もさまざまである。その情報源および情報獲得時期を探る試みとして、大学生に一つの語からの連想をさせてみた。今回は、「どんぐり」を連想の出発点とした。

学生にも、全員の連想図の生データを与えて考察させた。本論文では、連想図の分析ならびに学生のレポートを基に、学生の有する知識・情報の源と獲得時期についての筆者らの考察を述べた。

その結果、時期的には幼少時代から調査前日まで、獲得方法としては学校教育、家庭での体験、テレビ等のメディアなど、さまざまな情報獲得経過があることを示すことができた。また、中学生と大学生との比較、大学生どうしの比較によって、獲得された情報の質や量は多様であることも示すことができた。

〔キーワード〕 理科教育、情報獲得、教育メディア、中学生、大学生

われわれが、あることについて知っていると言うとき、その知識を一体、いつ、どこから得たのであろうか。これまで過ごしてきた生活における体験から、学校での学習から、読書から、あるいは新聞・テレビ等のマスコミから、他の人との会話からなど、実にさまざまな情報源が考えられる。またこれまでの生涯における情報獲得の時期もさまざまである。その情報源および情報獲得時期を探る試みとして、一つの語からの連想をさせてみた。今回は、「どんぐり」という語を連想の出発点とした。

筆者の一人である井上が、担当する講義「理科教材研究」において受講者に「どんぐり」からの連想を求めた。「どんぐり」を出発点とする連想は、昭和63年（1988）10月に試みたことがあり、今回（1991年7月）が2回目の試みである。前回の試みについては、報告済である（井上・佐藤 1988）が、連想図の分析をしたものの、学生の連想の内容については十分な考察をしていない。今回は、全員の連想図の生データをプリントにして学生に配布し、考察を加えたレポートの提出を求めた。本論文では、連想図の分析ならびに学生のレポートを基に、学生の有する知識・情報の源と獲得時期についての筆者らの考察を述べる。

1. 分析と考察

1) 分析方法

前回の連想データは、大学生163名、中学3年生42名から得たものであるが、今回は大学生96名から得たものである。

連想を求めたのは、1991年7月13日。受講学生の内訳はつぎの通りである。

	男	女	
5年次以上	2	0	（聴講生1名を含む）
4年次	7	5	
3年次	22	9	
2年次	19	32	

連想は、「どんぐり」を出発点としていくつでも連想できるだけ書かせた。連想は、一本線でもよいし、複数の方向に枝別れしてもよい（図1の例を参照）。

連想していくにつれて、やがて話題は出発点の「どんぐり」からは離れてゆくのがふつうである。どの連想語までが「どんぐり」と結び付くかは、一人ひとりの連想図を見てゆくしかないが、一語限りで他の話題に移ってしまう場合はきわめてまれである。したがって、資料の分析も、まず第一語の集計からはじめるが、次いで、何番目であろうと「どんぐり」と結び付けられる語をすべて包括する集計も行った。

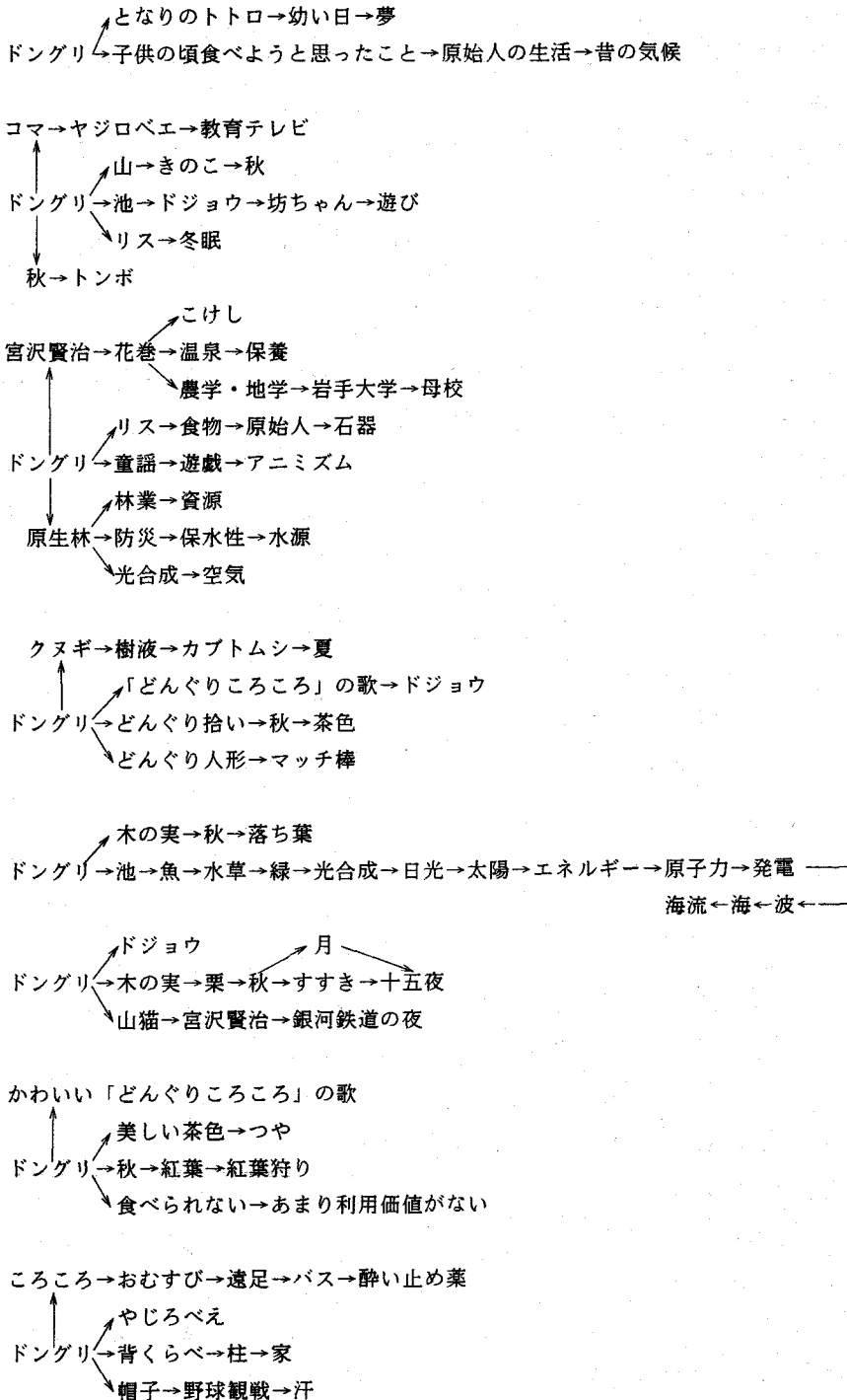


図1 連想の例

2) 連想第一語の分析と考察

第一語だけでも60数種類出てくるが、それをつぎのような13の範ちゅうに分けて整理してみた(第1表)。

歌「どんぐりころころ」、どんぐりと季節、どんぐりと環境、どんぐりの思い出、どんぐりと遊びやおもちゃ、どんぐりと動物、どんぐりと木の実等、どんぐりの特徴、映画「となりのトトロ」、宮沢賢治の「どんぐりと山猫」、どんぐりと国語、食糧としてのどんぐり、その他。

(1) 歌「どんぐりころころ」

「童謡」は一般的な名詞で、「どんぐりころころ」の歌そのものをさす言葉ではないが、この連想において「どんぐり」からすぐ頭に浮かんでいる言葉であるので、「童謡」イコール歌「どんぐりころころ」と解釈してよいと考えて、この範ちゅうに入れた。「歌」という連想語も同様である。連想第一語として挙げられた「歌」は歌「どんぐりころころ」と同義と解釈した。

歌の題名「どんぐりころころ」(「ころころ」も題名に含める)を第一語として挙げる者も多いのであるが、「どじょう」や「池」「どんぶりこ」など歌詞の一部も多くの人々が連想している。中学生のデータでは、「こんにちは」「ぼっちゃん」も第一語として登場している。「どんぐりころころ」も、歌の題名ではなく歌詞の先頭として連想されたのかもしれない。ただ、歌詞を頭に思い浮かべたとすると、「どんぐりころころどんぶりこ お池にはまってさあたいへん どじょうが出てきて今日は ぼっちゃん一緒に遊びましょ」

のうち、歌詞の文句の順序では、「池」が「どじょう」に先行するのに、「どじょう」の方が多いのは興味がある。いずれにしても、この歌は、しっかりと記憶されているのである。大学生においても中学生においても、60%前後の者が連想第一語としてこの歌に関する言葉を挙げているのは、その強い記憶に基づいているに違いない。その記憶がいつのころであるかについて、学生たちはつぎのように述べる。

- ・いつ覚えたかは定かではないが、ほとんどの人が歌える。
- ・幼稚園でふりつけ付きで歌ったような気がします。
- ・誰も幼稚園、小学校で歌ったと思う。
- ・子供の時に覚える代表的な歌のひとつである。

と、いつ覚えたのか、はっきりしたことは言えないが幼稚園(保育園)から小学校低学年の間であるらしい。このことは

どんぐりころころ→童謡→幼児→保育園

どんぐり→歌→小学校時代

どんぐり→歌→幼年時代

どんぐりころころの歌→保育園時代

という連想の内容からも言えるだろう。

学生たちが上記のように述べるごとく、この歌をうたったのは幼稚園から小学校低学年であるということは、中学3年生ですでに相当数が歌「どんぐりころころ」に関する連想をしている（井上・佐藤 1989）ことを説明する。

この歌に関しては、連想の2つめ以降にも出てくる場合が多い。

どんぐり→ドジョウ→坊ちゃん→遊び

どんぐり→ドジョウ

どんぐり→どんぐりころころ→ドジョウ

のような例である。「どんぐりころころ どんぐりこ」と覚えている人もいるようだが、どんぐりについてはこの歌を真っ先に連想するようだ。

(2)どんぐりと季節

データをみれば、どんぐりと言えば秋を思い出すというのがふつうのようである。

前回の調査は秋（10月）に行ったので、自然に思い出せたとも考えられた。しかし、今回のように7月に調査しても多数の人が秋を挙げている。自然と接する機会が減り、目にする野菜や果物もいつも店頭で並んで匂がわかりにくくなり、季節感がしだいに薄らぎつつある今日であるが、どんぐりはまさに秋の風物の一つとしてとらえられているようである。

(3)どんぐりと環境

この項目は、どんぐりがある場所と言い換えてもよい。この項目に入る言葉が連想されるということは、どんぐりをどこで採れるかがわからないほど自然のどんぐりと疎遠になるまでには至っていないことを示すのであろう。

(4)どんぐりの思い出

この項目は、自らの体験に基づくものが多いと考えられる。それゆえに挙げられる語はそれぞれ1名だけとなる可能性が大きい。が、「どんぐり」とのふれ合いが、いつ、どのような機会に生じているかを知るには、貴重なデータとなる。しかも、連想第一語として出ているから、かなり強い印象を持っているものと思われる。

思い出であるから、他人には意味のわからない私的なものが多い。ここでは、どんぐりを拾ったことを思い出していることに注目してみよう。

今回の調査対象となった大学生について、関連のあるものを挙げてみると、「どんぐり拾い」「友達と拾ったこと」の2名（2%）しかない。

それに比べ、前回（1989年）の調査対象となった大学生は、「どんぐり拾い」につな

がるつぎのような連想を記した。

どんぐり拾い (10名), どんぐり集め, どんぐり採り, 集める, 拾う, 幼少の頃拾いに行った思い出, 小さい頃探し集めた, 子どもの頃採って集めた, おばあさんと一緒に拾った, 小学校の遠足で拾った (以上各1名) 合計19名 (11%)

上記の記述のなかには, 「幼少の頃」「小さい頃」「子どもの頃」「小学校の遠足で」と, 体験の時期もうかがえるものもある。

同じ時期に調査した中学3年生では, 「思い出」にあたるものが「幼稚園」(1名)しかない。大学生にくらべれば年齢も少ないし, 「思い出」を語るほどの昔がないのかもしれないが, 「どんぐり拾い」は体験していれば連想語として出てきてもおかしくないと考えられるのだが, 皆無であった。今回(1991年)の大学生は, 「どんぐり拾い」の体験がないのであろうか。その点について, 大学生はレポートのなかでつぎのように述べているが, 数は少ない。

- ・幼い頃, 近くの公園で遊んでいるときにどんぐりをみつけて拾って家に持ち帰った。
- ・小学校の校庭でクヌギの実を見つけると宝物のように思いました。
- ・神社などで拾ってままごとをしたり, 首飾りをつくったりした。
- ・どんぐりをたくさん集めすぎて虫がわいて親におこられた。

(5)どんぐりと遊びやおもちゃ

前項目の「どんぐりの思い出」と同様, 体験がないと想起できないと考えられるのが遊びやおもちゃである。

やじろべえは2学年理科の素材として出てくる。ただ, 昭和64年度(1989)用小学校理科教科書2年では, 大日本図書・東京書籍・信濃教育会・啓林館・学校図書・教育出版の6社とも, 「どんぐり」製のやじろべえは出していない。それにもかかわらず, 中学生・大学生いずれも「どんぐりのやじろべえ」を連想するのは, どこに情報源があるのであろうか。それについて学生はレポートでつぎのように述べる。

- ・たしか小学校の時どんぐりを使って, こまややじろべえを作った経験があるし, 教育テレビでも放送されたのを見たことがある。
- ・どんぐりを使ってこまなどを作り, よく遊んでいた。学習雑誌などにも作り方が載っていた。
- ・小学校の時, 休み時間に拾ってきて授業中に友達に投げたりしたが, 学習雑誌に載っているようなどんぐりを使ってのこまややじろべえを作った記憶はない。

このことから考えると「どんぐりのやじろべえ」は学校放送や学習雑誌などによるものといえるようだ。

(6) どんぐりと動物

どんぐりからリスという連想は多い。ただ、実際にリスがどんぐりなど木の実を食べているところを見た者がこれだけいるとは考えにくく、映像や絵本、イラストなどで見た、「どんぐりとリス」というつながりが一般常識となっているからではないか。

(7) どんぐりと木の実等

どんぐりから木の実・実という連想は、別の言葉を連想したのではなく、「どんぐりは木の実である」ことを表現しただけではないかと思う。むしろ筆者らが関心を持ったのは、他の木の実としてどんなものが連想されるかであった。栗をかなり多くの者が挙げたがこれは「ぐり」の音が栗を連想させやすくしたのかもしれない。その他では、まつぼっくりが少数挙げられているものの、くるみはほとんど挙げられなかった（今回は挙げた者なし）。どんぐりからふつう木の実を連想しないというのであればよいが、実体験として木の実と接することがなかったから木の実を連想できない可能性もある。

(8) どんぐりの特徴

茶色や外形は絵でもわかるが、手にとってみなければわからない手触りや工作をするときにわかる特徴がどれほど挙げられるか。筆者らの関心はその点にあった。中学3年生の連想には、どんぐりを手もとで見た経験を思わせるものがきわめて少ない。しかし大学生の連想のなかには、「帽子」「かさ」「ふた」等の構造に関する言葉が挙げられている。レポートで「ふた」と「帽子」の意味がわからないと述べている学生が各1名いる。やはり、「帽子」「かさ」「ふた」という言葉はどんぐりを使って作業をする体験があったことを思わせる。大学生ではこうした言葉が10%を越える者から挙げられたことは、中学3年生との生活体験の相違を感じさせる。

(9) 映画「となりのトトロ」

前回の調査では、1名の大学生が連想第一語としてあげただけであったが、今回は8名(8%)の大学生が「トトロ」を挙げた。これは、マスメディアを情報獲得源とする一つの例である。前回とくらべて今回とくに多かったのは、この調査を行った前の晩にテレビで「となりのトトロ」が放映されたことによると考えられる。レポートで「トトロ」に言及した学生は46名いたが、そのうち22人が「前夜テレビで放映されたことから連想する人が多かった」と推定している。すなわち、「トトロ」を挙げた大学生のおそらく大部分にとって最新の情報であった。

(10) 宮沢賢治の「どんぐりと山猫」

大学生も中学3年生も10%前後の者が、「どんぐりと山猫」に関連する連想語を挙げている。今回、大学生が書いたレポートのなかに「岩手県に住んでいるから多くの人が連想した」と評するものがあつた。しかし、筆者らは「岩手県に住んでいるからもっと多くの

人が連想すると思った」と評するのがよいと思う。学生のなかにも、「どんぐりという言葉が題名にはいっているにもかかわらず、歌より少なかった」と述べている者がいるが、歌「どんぐりころころ」より少なくともよいが、地元の大学生であればもっと多数の者から連想されてもよいと考えるのである。花巻市出身者でなくても岩手県出身者であれば宮沢賢治の名は知っていると考えてさしつかえないであろう。しかしながら、賢治の作品を知っているとは限らない。「どんぐりと山猫」という作品の存在をしらない者が多いから10%程度の人しか連想しなかったのであろう。その結果、「どうして、どんぐり→山猫となるかわからない」と述べる学生（4名）が現れることになる。しかも「どんぐりと山猫」という作品名は挙げていても、その内容を知らないという人もいる。学生のレポートによっても、2名の学生が「内容は知らない」とはっきり書いている。

前述のように賢治の名前は多くの人知っているとは考えられるのだが、賢二、賢次と字を間違っている者が6名もいる。これは「となりのトトロ」の作者である宮崎駿を挙げた者がすべて正しく書いていることと対照すると、少しおかしさを感じる。

(1)どんぐりと国語

「どんぐりの背くらべ」に対して「どんぐり眼（まなこ）」は少ない。日常よく用いられる「どんぐりの背くらべ」が多くの人によって連想されるのは当然ではあるが、「どんぐり眼」という表現もしだいに失われつつあるから連想が少ないのではないのか。

(2)食糧としてのどんぐり

中学3年生からは、「食べられない」という1名の連想を除いては、食糧としてどんぐりを考える見方はうかがえないが、大学生では今回12%、前回7%の学生から、その連想が出た。縄文人、原始時代、飢饉、非常食等の言葉が使われていることから、高校の社会科の授業か大学の講義で知ったものと考えられるが、学生のレポート等では次のように述べられている。

- ・確か食べ物がない時これをなんとかして食物にしたと聞いたことがある（連想より）。
- ・縄文時代の人々の食糧としてどんぐりがあったというのは有名である。
- ・狩猟採集民族が食べていた。飢饉のときに食べた。
- ・どんぐりが縄文時代の人々の食糧であったということは講義で初めてわかったことである。

以上のことから講義以外のはっきりとした情報源は不明である。

(3)その他

ここには、これまで述べてきた範ちゅうのいずれにも整理できなかったものを集めたが、学生のレポートで解釈や説明されているもののうち興味深いものをいくつか挙げてみる。

- ・お坊っちゃんのおたま：これは今はないのかもしれないが、小さい子などの髪形で

「坊っちゃん刈り」というのがあったように記憶する。これがどんぐりの帽子の部分に似ていることから出たものかもしれない。

- ・「生産量・豊作・不作」は飢饉の時に食べたことから。「冬越し」は動物の食糧になっていることから連想されたように思う。

その他、「チョコレート」などは前回の連想にも出されているが、あとは個人的な考えによるものと思われる。

3) 連想第二語以降を含めた分析と考察

これまで連想第一語について述べた。第二語以降はどんぐりから離れた連想へと進む場合もあるが、どんぐりと結び付く範囲で連想が続けられている場合もある。ここではきわめて多数の第二語以降の連想語すべてではなく、どんぐりとのつながりがある語までに限定して分析してみた。それらの連想語は連想第一語と比較してもほとんど変わらない(第2表および図2)。しかし、先に分けた13個の範ちゅう別に見ると、いくつかの興味深い事実を見ることができる。

(単位：人)

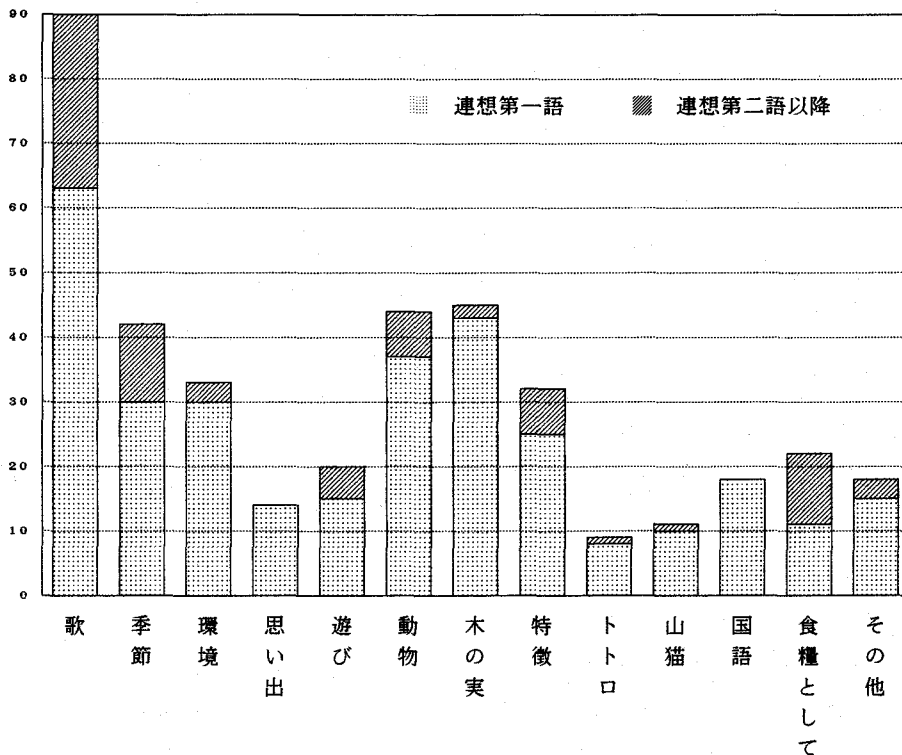


図2 連想第一語と第二語以降の数

連想第一語と第二語以降の連想語を加えたものを100%とした場合に、連想第二語以降の連想が占める割合を見ると(第2表), 食糧としてのどんぐり(50.0%), 歌「どんぐりころころ」(30.3%), どんぐりと季節(26.1%), どんぐりと遊びやおもちゃ(25.0%)が多い。これら4つの範ちゅうのうち, 歌「どんぐりころころ」と「遊びやおもちゃ」には, 第一語として連想される語と同格の語が複数含まれる。すなわち, 歌の場合歌詞からとった語が多いが, そのいずれを第一語としてもおかしくない。また, どんぐりごまや, やじろべえもどちらを先にするかは問題でない。「食糧としてのどんぐり」が第二語以降にも出る割合が高いのは, 連想第一語として頭に浮かぶ必要性はなくあれこれ連想している過程の中で出てくる内容であるためと考えられる。

「どんぐりの思い出」と「どんぐりと国語」の2つは, 第二語以降には連想語が出なかった。その理由は両者で異なると考えられる。すなわち, 「思い出」はすぐ頭に浮かぶのであって, なにかほかのことを想起しているうちにじわりじわりと浮かんでくるものではないか, 「思い出」は一度に出てくるもので後になっていくつも浮かんでくるものではないか, であろう。「どんぐりと国語」は, 「背くらべ」と「まなこ」の2語しかないからであろう。

「どんぐりと木の実等」の範ちゅうに入る語が第二語以降にきわめて少数しか出てこない(4.4%)のは, 関連する語彙が少ないことを推測させる。すなわち連想第一語で出てしまうと「木の実等」の範ちゅうに入る語がなくなってしまうのではないか。「木の実」および「実」を連想第一語で挙げた者(21名)が挙げた第二語は下記の通りである。

秋(5名), リス(3名), ぎんなん(2名), 木の実ナナ(2名), 栗, 収穫, 狩猟採取, 山遊び, 熊, 動物, アーモンドチョコレート, 栄養, 硬い(各1名)

上記の語のうち「木の実等」の範ちゅうに入るのは「ぎんなん」と「栗」のみであり, その他は異なる方面への連想に進んでゆく。

2. 講義「理科教材研究」における対応

学生の連想データは, 知識・情報の源と獲得時期をさぐる手だてとするほかに, 講義を構築し, 発展させるための材料となる。筆者の一人である井上は, すでに, 前回の調査においてそのような対応をしている(井上・佐藤 1989)。対応の内容は大きく二つに分けられる。

一つは, 学校放送番組(小学校理科および他の児童向け番組)の視聴である。それを通して, 番組の構成と自分たちが書いた連想の構造をくらべてみるができるし, 「どんぐりに関してこれほど多様な視点があるのか」と驚くと同時に, どんぐりに関する自分の知識・情報の薄弱なことに気付くことになる。

他の一つは、連想語のいくつかを取り上げた講義展開である。同僚である他の学生が書いた連想語のうちには意味がわからないものがあるはずである。それについては解説をする。また、一部の者が連想したものであるが、みんなの共有の知識・情報としたいものを広めることを目指した。たとえばつぎのようなものを講義の素材とした。

「あけび」、歌「小さな木の実」、「どんぐりごま」、童謡「どんぐりと山猫」、「どんぐりのイントネーション」、「どんぐりの食用可否」、「とち餅」。

今回の調査では、前回ほど細かい対応はしなかったが、一人の学生の「どんぐり」→「餅」という連想を取り上げて、「食糧としてのどんぐり」を講義の素材としてみた。すなわち、下記のNHKテレビ学校放送番組を映像資料として用いながら、原始時代ばかりでなく、現代においてもどんぐりが食糧として扱われていること（県北地方や韓国にもどんぐり料理があること）を紹介した。

・みんな地球人「日韓むすぶドングリ料理」（平成3年3月4日放送）

・みんなでアタック「どんぐりあつめろ」（昭和62年11月12日放送）…この番組は、岩手県岩泉町大平小学校坂本分校の児童が登場しており、おばあちゃんに伝来のどんぐり餅をつくってもらう場面も出てくる。

この講義については、学生のレポートでつぎのように述べられている。

- ・どんぐりは食べたいとも、食べられないとも考えたことがなかった。しかし、県北地方でどんぐりの料理があることを知り、新たな知識が増えた。
- ・私にとって新鮮だったのはどんぐり餅というものだった。
- ・どんぐり→餅と書いた人をうらやましく思った。
- ・どんぐりが食べられるということを知っている人がたくさんいて驚いている。授業中先生がそれらに関するビデオをみせてくれたがこれは大きな収穫だった。
- ・食べ方をみた時、色など黒っぽくあまり食べたいという気にはなれませんでした。身の回りには食べ物が豊富にあるということもあってか、どんぐりはますます利用価値のないものにとらえられているように思います。
- ・韓国語の古いことばでは「まるいもの」をドングル・イというのでどんぐりと関係があるのではないかり。

レポートでも食糧ということを中心にまとめた者が2名おり、この講義は学生たちに何らかの影響を与えたのかもしれない。

3. おわりに

これまで「どんぐり」というものについての知識を連想とレポートから見てきたが、前日テレビで放映された内容や講義に対する反応は速い。しかしながらレポートを書く際、

まずどんぐりとは何かということ辞典等で調べている学生が多く、連想の中でも具体的な木の名前を挙げているのは「クヌギ」、「ミズナラ」の各1名のみである。その他にも、どんぐりに対する思い出も前回より少ないことなどからどんぐりに接する機会はだんだん少なくなっているように思う。新しい情報をどんどん取り入れることは必要だが、いままでの経験も大切にしていってほしいと思う。

引用文献

井上雅夫・佐藤勝洋：素材からの連想による知識・情報の構造化—とくに「どんぐり」について—。岩手大学教育学部附属教育学センター教育学研究，第11号（1989），67—78頁

1) ハングルで「どんぐり」は도토리 [tot'ori]

第1表 連想第一語

今回(1991年)の調査		前回(1989年)の調査	
大 学 生		大 学 生	中 学 3 年 生
(1)歌「どんぐりころころ」			
どんぐりころころ	14名(15%)	どんぐりころころ	42名(26%)
どじょう	12 (13%)	どじょう	21 (13%)
ころころ	12 (13%)	ころころ	11 (7%)
童謡	9 (9%)	童謡	23 (14%)
池	9 (9%)	池	4
歌	6 (9%)	歌	6
ころころどんぶりこ	1	ドンブリコ	1
		お池にはまって	1
			どんぐりころころ 1名
			どじょう 6 (14%)
			ころころ 10 (24%)
			池 5 (12%)
			歌 1
			お池にはまって 1
			ウナギ, 大変, こ んにちは, ぼうや, ぼっちゃん 各 1
(2)どんぐりと季節			
秋	33名(34%)	秋	64名(39%)
秋の遠足	1	秋の遠足	1
		秋の山	3
		秋空, 秋の風物, 秋 の味覚, 9月	各 1
			秋 23 (55%)
			秋の遠足 1
			秋の山 1
(3)どんぐりと環境			
山	15名(16%)	山	21名(13%)
紅葉している山	1		
森	7 (7%)	森	6
神社	2	神社	2
公園		公園	2
雑木林, 原生林, 寺, 道端	各 1	雑木林, 原生林, 野山, 高原, 山の中の牧場	各 1
			山 8名(19%)
			森 5 (12%)
			公園 1
			岩手山, 岩山, 自 然, 山道 各 1
(4)どんぐりの思い出			
同級生・友人 弟, 父, 幼稚園, 小学生の頃, 保 育園の裏庭, 故 郷の山, 子供時 代, 歌の絵本, たき火, 友達と 拾ったこと, か えり道	2名 各 1	幼稚園, 幼い頃, 小 さい頃はよく見た けど今は見ない, 幼少の頃合いに行 った思い出, 小 さい頃探し集めた, 子どもの頃探って 集めた, おばあさ んと一緒に拾った, 小学校の遠足で拾 った, どんぐりが 落ちていたお寺の 庭, 姉, 小学校の 図工で人形作りで 使った, 幼稚園の 裏の山, 小学校の 裏山, 中学校の近 くにある山, 中学 校の掃り道, 幼い 頃どんぐりを切ろ うとして指を切っ てしまった思い出	幼稚園 1名
どんぐり拾い	1	どんぐり拾い くり拾い どんぐり集め, 大ど んぐり持ち, どん ぐり採り, 集める,	各 1 10 (6%) 3

今回(1991年)の調査		前回(1989年)の調査			
大 学 生		大 学 生		中 学 3 年 生	
		拾う、山の木の実に 拾い	各 1		
(5)どんぐりと遊びやおもちゃ					
やじろべえ	6名 (6%)	やじろべえ	22名(13%)	やじろべえ	5 (12%)
こま	5 (5%)	こま	41 (25%)	こま	2 (5%)
		おもちゃ	3		
遊び道具	1	昔の子どものおもちゃ、 どんぐりを使ったおもちゃ	各 1		
どんぐりの首飾り	1	首飾り	1		
どんぐりの人形	1	ネックレス	2		
ままごと	1	人形	2		
		どんぐりを使った遊び	2		
		どんぐり笛	2		
		豆鉄砲の玉、どんぐり りまわし、どんぐり り戦争	各 1		
(6)どんぐりと動物					
リス	32名 (33%)	リス	21名 (13%)	リス	9名(21%)
小動物	2	虫、中に入っていた 虫、穴から出て来 虫、栗につく虫	各 1	虫、毛虫、ネズミ	各 1
熊	2				
ネズミ	1				
(7)どんぐりと木の実等					
木の実・実	17名 (17%)	木の実	53名 (33%)	木の実	7名(17%)
栗	8 (8%)	栗	30名 (18%)	栗	5 (12%)
落ち葉	5 (5%)	落ち葉	4	落ち葉	1
まつぼっくり	4 (4%)	まつぼっくり	8 (5%)	まつぼっくり	2 (5%)
木	4 (4%)	木	3	木	3 (7%)
クヌギ、ミズナ ラ、もみじ、 落ちて重な った木の葉	各 1	カシ、どんぐり りの木	各 3	枯れ葉	2 (5%)
		枯れ葉、実、トチの実、 シイの実、ナラ、 クヌギ、落ちる イガグリ、クルミ	各 2 各 1	落ちている イガグリ、クルミ	1 各 1
		甘栗、ナラの仲間、 モミの木、ブナ、 落葉樹、木の葉、 木の葉さらし、紅 葉、紅葉した落ち 葉、もみじ	各 1		
(8)どんぐりの特徴					
茶色	8名 (8%)	茶色	5名	茶色	17名(40%)
帽子	7 (7%)	帽子	20 (12%)	帽子	2 (5%)
ベレー帽	1	ベレー帽	2		
		とんがり帽子、かさ 帽子	各 1		
ふた	2				
かさ	1	かさ	5		
固い	1	固い	5	固い	2 (5%)
かわいい	1	かわいらしい	2	かわいらしい	4 (10%)
つるつる、ちく ちく、ぼつぼ つ	各 1	ころがる	3	ころがる	1
		小さい	4	小さい	2 (5%)
		つるつる、だ円	各 1	つるつる、だ円	各 1
		どんぐりのへた、殻 固い殻、ころころ		丸い	1

今回 (1991年) の調査		前回 (1989年) の調査			
大 学 生		大 学 生		中 学 3 年 生	
		している, 青, 黒 くて穴のあいたど んぐり, とんがり, 細長い, 三角の丸 みを帯びた形, ど んぐりの頭の所, 植物	各 1		
(9)映画「となりのトトロ」	8名 (8%)	トトロ	1名		
(10)宮沢賢治の「どんぐりと山猫」					
山猫	4名 (4%)	どんぐりと山猫	9名 (6%)	どんぐりと山猫	5名(12%)
どんぐりと山猫	2	童話	1		
童話	3 (3%)	宮沢賢治	1		
宮沢賢治	1				
(11)どんぐりと国語					
どんぐりの背くらべ	15名 (16%)	どんぐりの背くらべ	38名 (23%)	どんぐりの背くらべ	4名(10%)
どんぐり眼 (まなこ)	3 (3%)	どんぐり眼	3	背, ことわざ	各 1
		伸び悩み, 身長	各 1	どんぐり眼	1
(12)食糧としてのどんぐり					
縄文人の食糧	3名 (3%)	原始時代の食物	1名		
食糧		昔の食糧	1		
東北地方で飢饉		非常食	1		
のときに食べ					
た, 飢饉	各 1	つぶして粉にして餅			
餅	1	にして食べる	1		
渋味, 苦い,		食べる	2		
煮る, 子供の		あく抜きして食べる			
頃食べようと		地方	1		
思った	各 1	食べてもおいしくない	1		
		一度食べてみたい	1		
		食べられない, 食べ		食べられない	1名
		られそうで食べら			
		れない, 食べられ			
		るか食べられないか	各 1		
(13)その他					
チョコボール,	各 1名	チョコレート	2名		
チョコレート		森のどんぐり	3		
どんぐりの形を		ぐりとぐら	3	ぐりとぐら	1名
したチョコレ		お菓子	1		
ートのお菓子	2	どんぐり頭	5		
おぼっちゃん		頭	4	頭	2 (5%)
の頭, 坊主頭	各 1	坊主頭	3	おむすび, カット,	
		ロッキータック	1	スポーツ	各 1名
生産量・豊作・		工作	2		
不作, 鐘, バ		図工, 教材, 小学生			
スの中, 旅す		の算数, 数学科教			
る武士, パチ		材研究, 戦時中は			
ンコ, ミサイ		油をとったとか,			
ル, 冬越し,		山登り, 民謡, 泣			
薬草, 火あぶり	各 1	き虫, あめ, パチ			
		ンコの玉, 水戸黄			
		門, ニックネーム,			
		子ども, 家の囲い,			
		人の顔, 野球部	各 1		

第2表 連想第一語と第二語以降の割合

	第一語の数	第二語以降の語の数
(1)歌「どんぐりころころ」	63名 (70.7%)	27名 (30.3%)
(2)どんぐりと季節	34 (73.9)	12 (26.1)
(3)どんぐりと環境	30 (90.9)	3 (9.1)
(4)どんぐりの思い出	14 (100.0)	0 (0.0)
(5)どんぐりと遊びやおもちゃ	15 (75.0)	5 (25.0)
(6)どんぐりと動物	37 (74.1)	7 (15.9)
(7)どんぐりと木の実等	43 (95.6)	2 (4.4)
(8)どんぐりの特徴	25 (78.1)	7 (21.9)
(9)映画「となりのトトロ」	8 (88.9)	1 (11.1)
(10)宮沢賢治の「どんぐりと山猫」	10 (90.9)	1 (9.1)
(11)どんぐりと国語	18 (100.0)	0 (0.0)
(12)食糧としてのどんぐり	11 (50.0)	11 (50.0)
(13)その他	15 (83.3)	3 (16.7)